



とっとり

公益財団法人
鳥取県国際交流財団
Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取県国際交流財団

国際通信

No. 137
July, 2021

子どものための異文化理解体験講座

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鳥取国際通讯 - Bản tin quốc tế Tottori



表紙 Photo

国際交流コーディネーターの活動の様子

Outreach activities by our international coordinators

国际交流协调员的活动状况

Các hoạt động của điều phối viên giao lưu quốc tế

目次 Contents / 目录 / Mục lục

● TPIEFだより	02-03	● 共に生きる ～多文化共生～	07
令和3年度主な事業の開催状況		● JICAデスクよりお知らせ	07
● 母語による外国人相談窓口の開設		● 英語版・中国語版・ベトナム語版	08-09
● 国際交流フェスティバルの実施		ダイジェスト	
● 子どものための異文化理解体験講座の開催		Information in English, Chinese and Vietnamese	
● 医療・コミュニティ通訳ボランティアの派遣		英文版・中文版文摘・越语版	
● 医療通訳ボランティア(英語)自主勉強会への支援		Bản tóm tắt bằng tiếng Anh-Hoa-Việt	
● 行政書士による無料相談日		● 賛助会員募集のご案内	10
● 特集「STAY HOME ～Around the World～」	04-05	● ワールドレシピ	10
とっとりじん			
● われら“鳥取人”	06		

主な事業の開催状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止により、事業の中には延期や中止が既に決まったものがあります。主な事業の開催状況と、その事業に携わる方からのメッセージを紹介します。

母語による外国人相談窓口の開設

鳥取県に住む外国人の皆さんが直面するさまざまな困りごとに母語で相談を受け、必要に応じて専門機関への橋渡しをしています。英語・中国語・ベトナム語での生活相談に対面や電話、メールなどで対応しています。相談内容の秘密は固く守りますので、安心してご相談ください。

6月より、ベトナム出身の国際交流コーディネーターの勤務日が増えましたので、相談が受けやすくなりました。また、国際交流コーディネーターは、学校や公民館など地域での交流事業や国際理解講座にも出かけます。お気軽にご相談ください。



国際交流フェスティバルの実施

誰でも気軽に国際交流ができる機会を提供しています。在住外国人出身者とのつながりを持つきっかけにもなりますよ。

開催予定行事 新型コロナウイルス感染症拡大の情勢を勘案しながら今後開催の可否等詳細を決定します。

<p>東部</p> <p>タイムフェスティバル</p> <p>日付 11月7日(日)</p> <p>会場 とりぎん文化会館</p>	<p>中部</p> <p>くらよし 国際交流フェスティバル</p> <p>日付 11月21日(日)</p> <p>会場 伯耆しあわせの郷</p>
--	---

みんなの顔が見える交流がしたいですね。



※「よなご国際交流フェスティバル」は中止が決定しました。

子どものための異文化理解体験講座の開催

小学生を対象に、小学校へ外国人講師が出向き、多言語による歌やダンス、遊びなどの体験によりさまざまな国の文化に触れ、世界の中の日本について考える機会を提供する講座を実施します。

1学期は新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催を見合わせました。10月～12月に実施する予定で、各小学校に案内しています。



医療・コミュニティ通訳ボランティアの派遣

利用者に分かりやすく利便性の向上のため、医療通訳ボランティア派遣制度とコミュニティ通訳ボランティア派遣制度を統合しました。

<p>旧制度との違い</p> <p>派遣依頼書・活動報告書の各種様式を統一しました。医療・コミュニティ通訳ボランティアどちらも同じ派遣依頼書で依頼が出来ます。報告書も同じ様式です。</p>	<p>ホームページからの依頼(予定)</p> <p>今年度中にホームページに派遣依頼フォームを設置します。派遣依頼書の記入が難しい方は、ホームページから依頼が出来るようになります。 ※システムが整い次第、ホームページやfacebookでもお知らせします。</p>	<p>派遣についてのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、依頼者には聞取票*の記入をお願いしております。 ※2週間以内に県外に外出していないか、体温は平熱かなど事前に確認させていただきます。 ● 派遣3日前までに依頼書をご提出ください。 ● 派遣終了後の報告書の提出も派遣終了後3日以内にお願いします。 ● 通訳者が必要になったら、まずはご連絡ください！ 詳しくは最寄りの財団事務所にお問い合わせください。
---	--	---

英語の医療通訳ボランティア 自主勉強会への支援

医療通訳ボランティアの方々の自主勉強会(月1回)の支援をしています。

～勉強会で学習！医療通訳ボランティアさんに聞きました～



参加者の声

医療通訳勉強会に参加させていただき1年余りが過ぎました。医療英語には普段使わない単語や表現があり、いつも新しい発見で一杯です。シェリー先生の楽しいご指導のおかげでいつも楽しく勉強させていただいています。



行政書士による無料相談日

毎月第2日曜日に、行政書士による在留手続きなどの相談を受け付けています。**事前の予約をお願いしています。相談は無料です。**通訳が必要な場合はその旨も予約の際にお伝えください。

- 本所 対面による相談
- 米子事務所 ビデオ通話による相談

その他の事業

9月以降の開催については、情勢を勘案しながら開催の可否を決定していきます。

開催の可否が確定次第、ホームページ等でお知らせしていく予定です。



財団の新しい仲間の紹介



常務理事 兼 事務局長

中林 宏敬

このたび当財団の常務理事兼事務局長になりました中林です。20年前に3年間事務局長をしておりましてので、覚えておられる方があるかもしれません。

当時は本所が鳥取空港内にあり、留学生やご家族が主な利用者でしたが、今では鳥取駅前に立地し、技能実習生の利用が増えるなど、当時とはまったく環境が変わっております。

今はコロナ禍で多人数での交流事業が思うようにできませんが、日本語クラスの講師や医療機関での通訳ボランティアなど、多くの皆様にご活躍いただいております。

高齢者以外の方のワクチン接種も始まり、明るい兆しも見えてきました。あとしばらくの辛抱です。コロナが終息した際には、大いに対面型の交流を楽しみましょう。



米子事務所 国際交流推進員

森木 由加里

みなさん、こんにちは。4月より米子事務所に着任しました。新たな出会いの中で教えて頂くことの方が多く、地域の方々から取り組みを聞いて学んでいます。また、日々の生活においても新型コロナウイルスの感染拡大により生活環境や地域経済に大きな影響をもたらしています。

当財団では、県内の外国人住民に対して多言語ならびにやさしい日本語で、生活に役立つ細やかな情報提供をはじめSNSを活用したフェイスブック「とっとりニコニコ」の情報配信も行っています。多文化共生への理解促進に向け、地域社会とのつながりを大切に取組んでいきますので、いつでもお気軽にご相談ください。



みなさん、お家で どう過ごしていますか？

STAY HOME

~Around the World~

~海外在住の鳥取県にゆかりのある方々に聞きました~



昨年の3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大防止による自粛生活が続いています。世界のあちこちでも、鳥取県にゆかりを持つ方々が新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら生活を送っておられます。

今回は、あまりニュースでは聞けない世界各地のコロナ事情をお聞きしてみました。



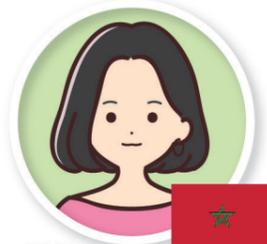
英国
渡邊 理紗さん

私のコロナ禍の英国はビザ申請から始まる。通常1~2ヵ月で発行されるビザが、コロナによる人員削減のために約5ヵ月かかってようやく発行され、ビザ期限の関係でコロナ禍の移住となった。私の住む南西部のエリアは英国内でもコロナ感染者数が少なく、ロックダウン中の生活は、個人的には何のストレスもない。スーパーやドラッグストアは開いているし、他に欲しいものはネットで購入すれば良いからだ。田舎の街のわりにスーパーが5つもあるので、夫と1日かけてスーパーをはしごするのも意外と楽しい。また、近所に自然公園があるので、散歩やランニングに気軽に行ける。

実際に暮らして便利な点は、オンラインや電子システムが発達しているところだ。大抵の申請はオンラインや電子システムで済むのが英国である。特に感動したのが、処方箋の入手だ。かかりつけ医に朝一で電話して診察を依頼すると、当日または翌日に医師から電話があり診断され、処方箋は最寄りの薬局に電子発行される。翌日に薬局の窓口で名前と住所を言えば薬を入手できる。日本でも電話やオンラインによる診察が始まっていると聞いており、症状が安定しており重病でなければ、こういう制度がどんどん定着していくと医師も患者も楽だと思う。



▲ スーパーの駐車場でできた仮設ワクチン接種会場



モロッコ
フムリ 由嘉さん

モロッコでは昨年の3月2日、国内初の感染者が確認されました。その後感染者は増えていきましたが、それに対する政府の対応は早かったです。2週間以内に全ての学校の休校が決定され、授業はオンラインに切り替わりました。同月15日には国境が封鎖、海外との往来が停止され、20日からは「衛生緊急事態」の発令により、国内全土でロックダウンが開始されました。外出には許可証が必要で、違反すると罰則が科せられます。約3ヶ月の間、文字通り家から一歩も外に出られない生活を送りました。そんな中、日本政府が「全ての国民に」と、一律に給付金を支給しましたが、在外邦人は除外されました。先が見えない状況で不安な中、あの時味わった絶望感は今も忘れられません。

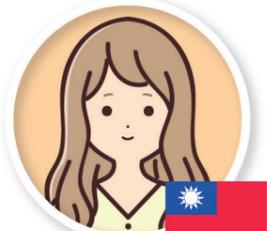
モロッコ当局の力は絶対的でしたが、何が何でもウイルスを広げないという強い意志を感じました。その頃対岸のヨーロッパでは爆発的な感染拡大が起こっていたので、対策には一定の効果があったと思います。現在は夜間の外出制限や大人数での集会の禁止等、制限は続いています。感染者数は落ち着いており、人々は通常の生活に戻りつつあります。ワクチン接種も進んでおり、接種率は25%(6/10時点)と世界でも比較的高い水準です。コロナ禍により、モロッコの底力を見せつけられた気がしています。



▲ 啓発ポスター



▲ ワクチン接種会場



台湾
山本 良子さん

台湾に来て5年が過ぎました。鳥取市にある「日華ふれんず」で中国語を勉強した後、台湾に渡り1年の語学留学を経て現地で日系の広告デザイン会社に就職し今に至ります。

これまで台湾は政府の初動の速さと水際対策の成功により、世界からコロナ対策の優等生として称賛されてきました。政府の対応の速さやリーダーシップ、次々とITを駆使した対策や国民一人一人の防疫意識の高さにも驚かされました。このまま終息すると思われていたが、今年5月より急激に感染者が拡大し緊迫した状況が続いていますが、それでも政府と国民の姿を見てると「きっと大丈夫だ」と思われます。

昨年3月19日には、居留証などを持つ特定の人を除く外国人の入国が禁止され、入国時には14日間の在宅検疫が必要となりました。GPSで管理され1住居1人に制限され、一歩も玄関から出ることは許されません。居留証を持つ私は日本に一時帰国することはできますが、台湾帰国後の2週間の隔離は大きな壁となり、2020年1月以来日本には帰っていません。今は飛行機の便数も大きく減便され、自分や、日本の家族に何かあった場合の不安はずっと持ち続けています。



▲ 緊急事態宣言が出てすぐはスーパーなどで品不足になりましたがすぐ回復しました。写真は最も品不足の時です。



ブラジル
アンドレ コウジ ニシサカさん
(元鳥取県費留学生 西坂デンタルオフィス院長)

ブラジルでは、毎日8万人が新型コロナウイルスに感染し、2,500人が亡くなっています。ソーシャルトラブルが多く、失業率は1500万人と記録的な数字となり、ホームレスの人が増えて治安問題となっています。一方、ワクチン接種が進み、国民の20%が1回目、10%が2回目の接種を終えました。医療従事者や高齢者は早く接種できるので、私もワクチン接種が終わりました。

新型コロナウイルス感染症が広がってから、私の生活も変わりました。私のクリニックは、もともと診療時間が朝9時から夜7時ですが、今は朝7時から夕方5時までになっています。理由は、早い時間の方が人通りも少なく、患者さんが安心して治療に来られるからです。診察人数も以前の半分に制限しています。歯科医院は医者との距離が近く、患者さんがマスクを外すため、注意を払わなければいけません。そこで、しばらく専門を一般治療から歯科矯正へシフトすることにしました。ブラジルでは、同じ歯科医院でも専門を選ぶことができます。これによりお互いがパートナーとして患者さんに適したクリニックを紹介できます。

私が役員をしている鳥取県人会の様子も紹介します。県人会では、県人会館で約20種類の活動を行っています。「日本語クラス」や「鳥取しゃんしゃん傘踊り」などですが、今は全部中止です。毎月インターネットのビデオカンファレンスで役員会をしています。他の県人会では、会館の運営費を捻出するため、地元の日本料理を作ってテイクアウト販売するところもあります。

このコロナの広がり、皆さん不便なことが多いと思います。しかし、そんな中でも、私自身は家族との絆がさらに強くなったと感じています。お互いコロナウイルスに気をつけて過ごしましょう！



▲ クリニックで患者さんと

